

令和6年度第7回ネットモニターアンケート結果
(将来(高齢化)へ向けた「自助」「互助」「共助」に対する意識に関するアンケート)

○アンケートテーマ	将来(高齢化)へ向けた「自助」「互助」「共助」に対する意識に関するアンケート
○対象者	おみたまネットモニター登録者 324人
○回答期間	令和6年12月23日～令和7年1月3日
○回答者数	117人
○回答率	36.1%

「自助」「互助」「共助」とは…

【自助】一人ひとりの取り組み(生きがいづくり、健康づくり、介護予防など)

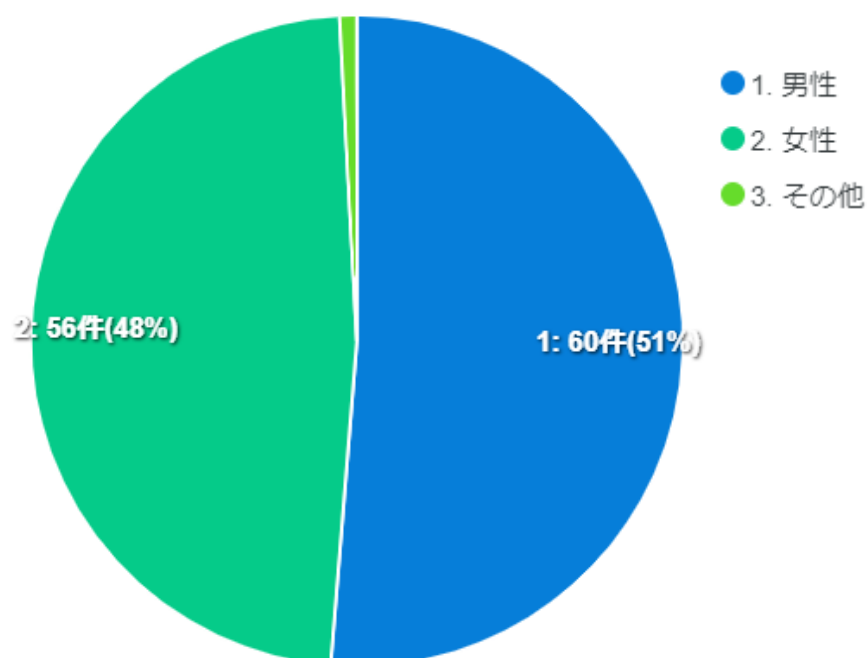
【互助】みんなの支え合い(近隣住民やボランティア団体の助け合い)

【共助】医療保険や介護保険などのサービス

皆さんが将来にわたり、住み慣れた地域でいきいきと暮らし続けるための「備え」や「意識」等について考えを伺います。

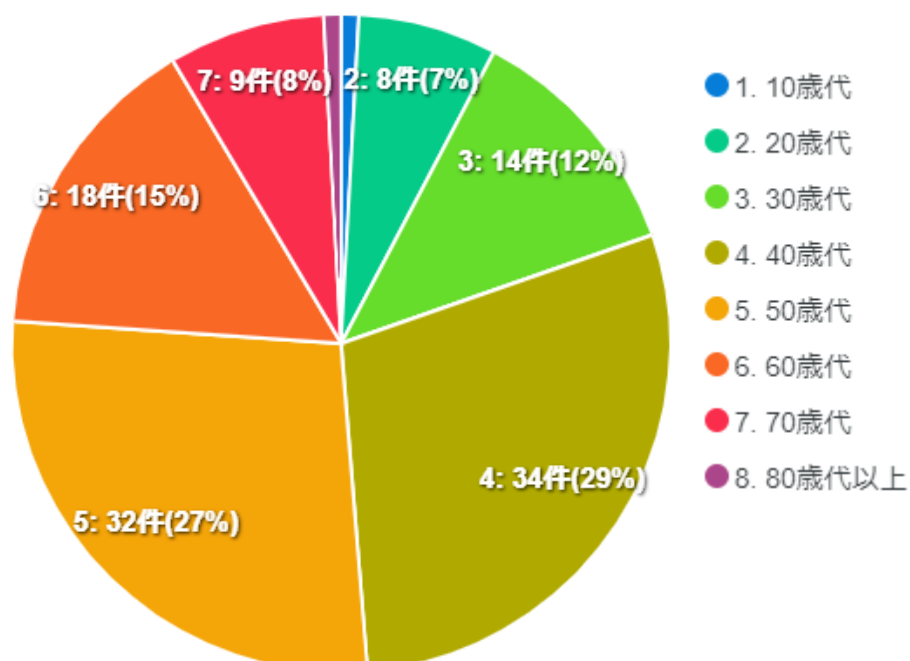
Q1. 性別

項目	人数	割合
男性	60	51%
女性	56	48%
その他	1	1%



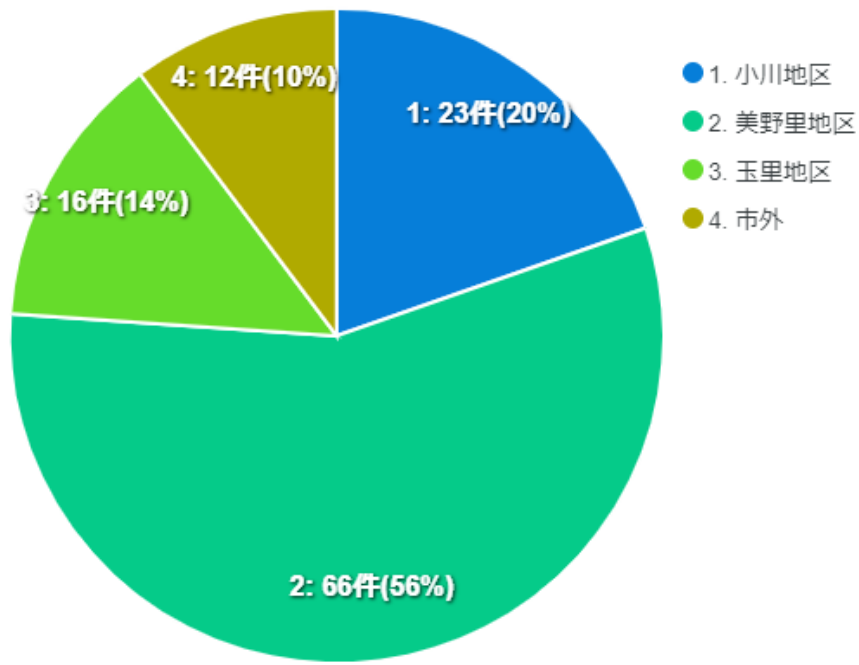
Q2. 年齢(年齢層)

項目	人数	割合
10歳代	1	1%
20歳代	8	7%
30歳代	14	12%
40歳代	34	29%
50歳代	32	27%
60歳代	18	15%
70歳代	9	8%
80歳代以上	1	1%



Q3. お住いの地区はどこですか？

項目	人数	割合
小川地区	23	20%
美野里地区	66	56%
玉里地区	14	14%
市外	12	10%

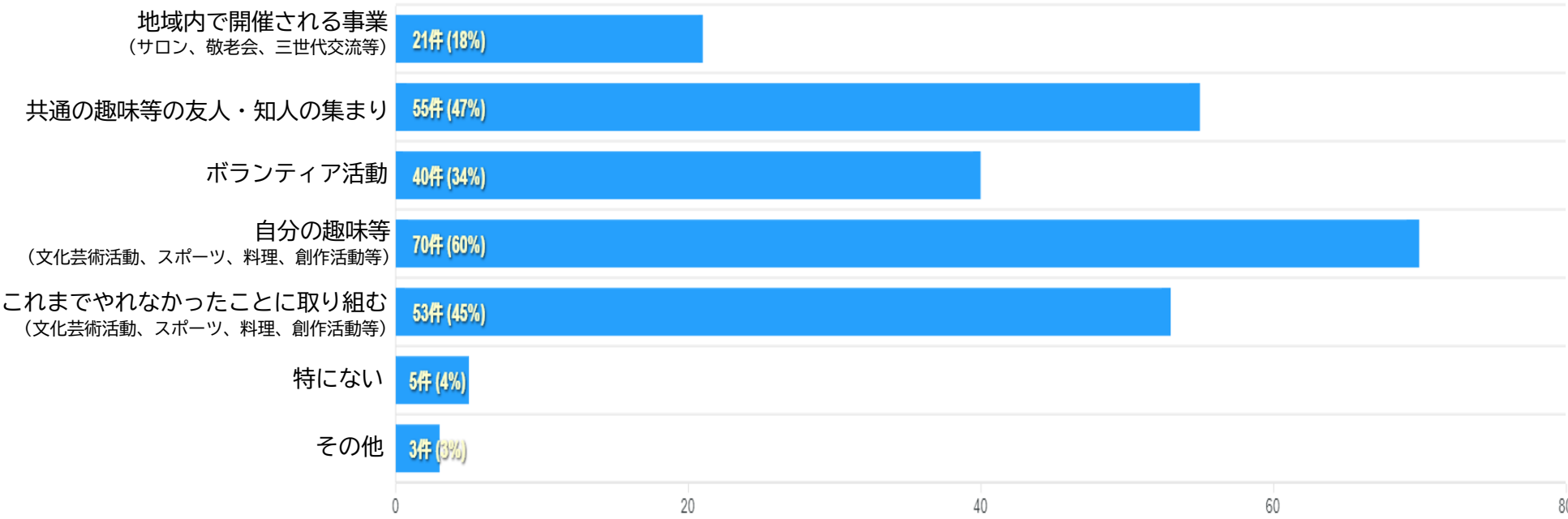


Q4. 将来、あなたが自ら参画して“楽しく元気にいきいきと過ごす場面”として、どのようなことをイメージしていますか。やってみたいことを3つまで選択してください。

※文化芸術活動：手芸、絵画、演劇、音楽、鑑賞、観察、学習等

※スポーツ：競技、軽スポーツ、レクリエーション、ハイキング、ヨガ、太極拳等

項目	人数	割合
地域内で開催される事業(サロン、敬老会、三世代交流等)	21	18%
共通の趣味等の友人・知人の集まり	55	47%
ボランティア活動	40	34%
自分の趣味等(文化芸術活動、スポーツ、料理、創作活動等)	70	60%
これまでやれなかったことに取り組む(文化芸術活動、スポーツ、料理、創作活動等)	53	45%
特にない	5	4%
その他	3	3%

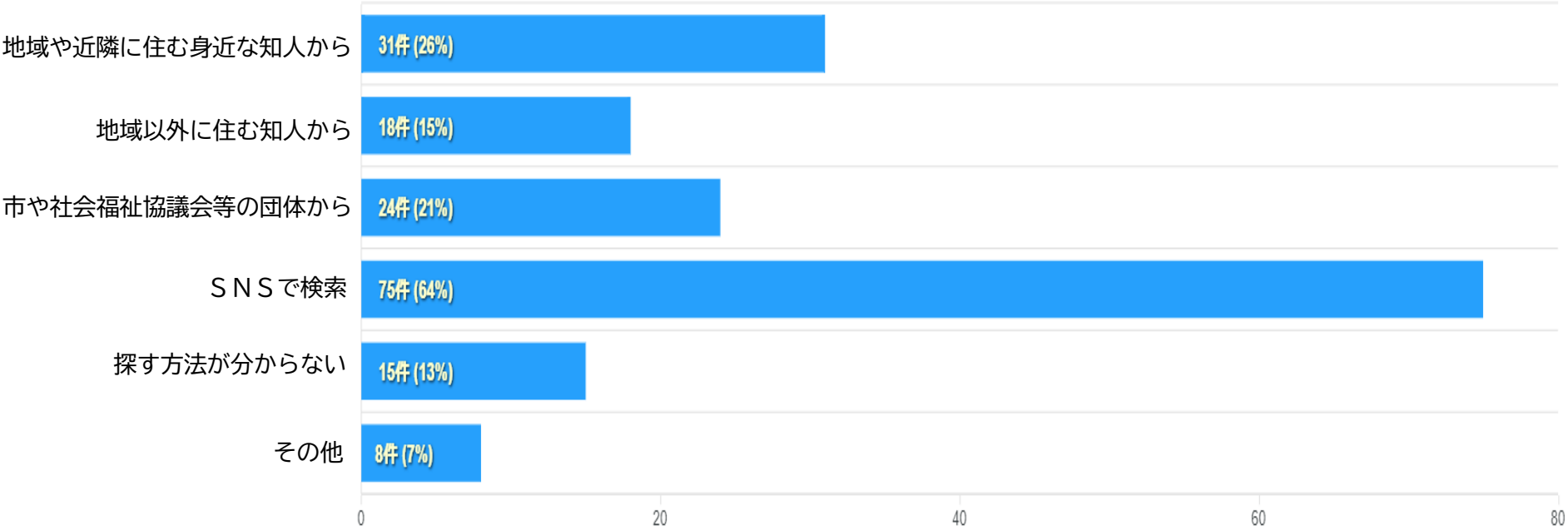


その他の回答

学校行事のお手伝い。
時間に制限の無い自分ペースで出来る事
新たに資格を取得してマイペースで週3日くらい働く

Q5. やってみたいことに関する情報は、現在どのような方法で得ていますか。

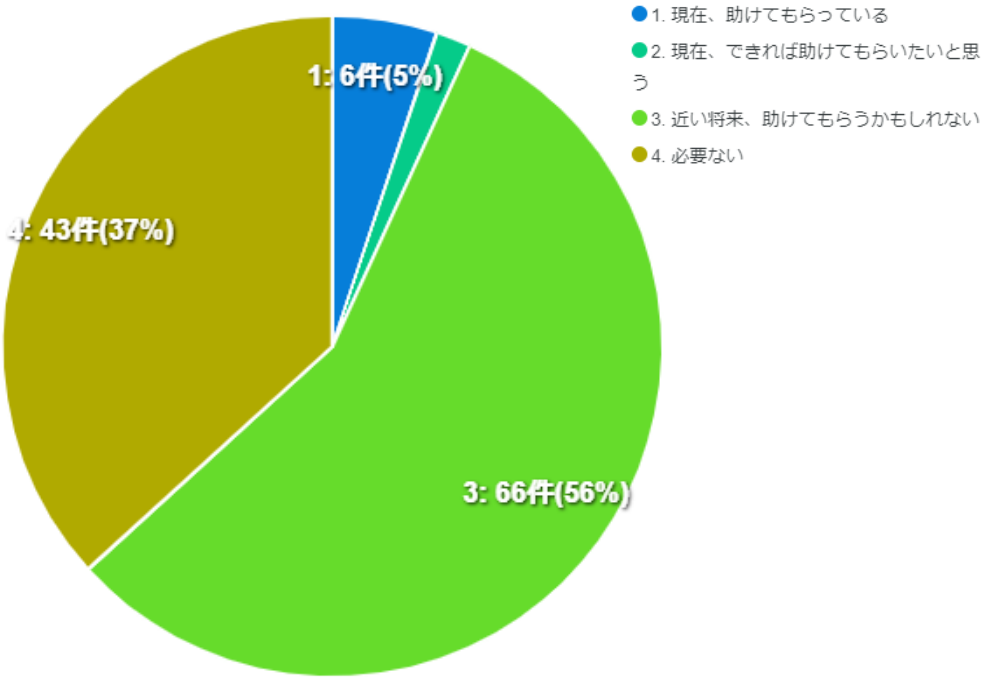
項目	人数	割合
地域や近隣に住む身近な知人から	31	26%
地域以外に住む知人から	18	15%
市や社会福祉協議会等の団体から	24	21%
SNSで検索	75	64%
探す方法が分からない	15	13%
その他	8	7%



あなたが“住み慣れた地域で元気に自分らしく過ごす”ために、地域の中での助け合いについてどのように考えていますか。

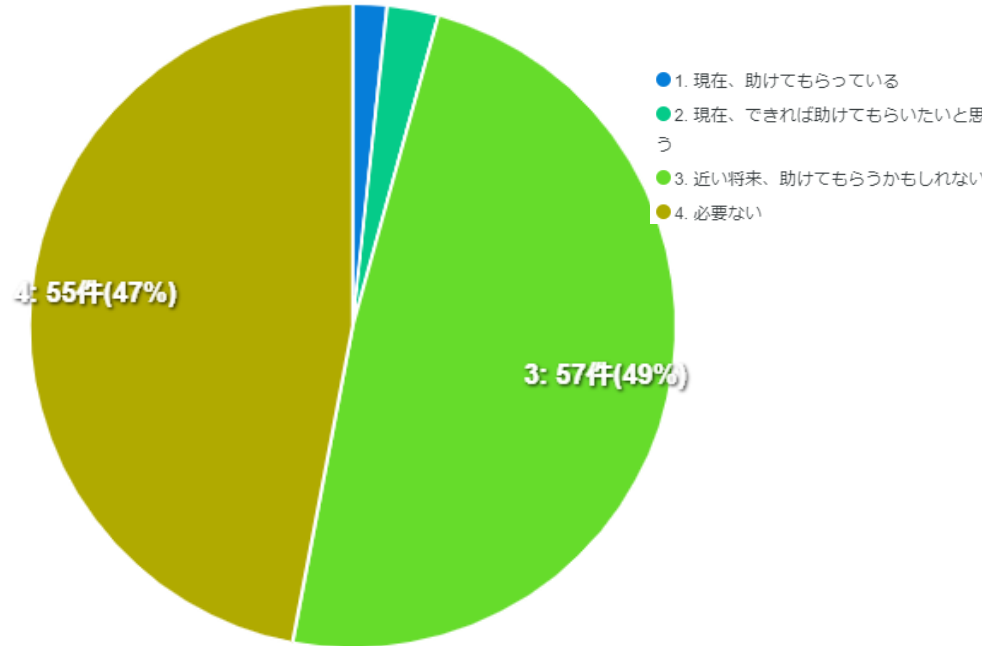
Q6. 安否確認の声掛け・見守り

項目	人数	割合
現在、助けてもらっている	6	5%
現在、できれば助けてもらいたいと思う	2	2%
近い将来、助けてもらうかもしれない	66	56%
必要ない	43	37%



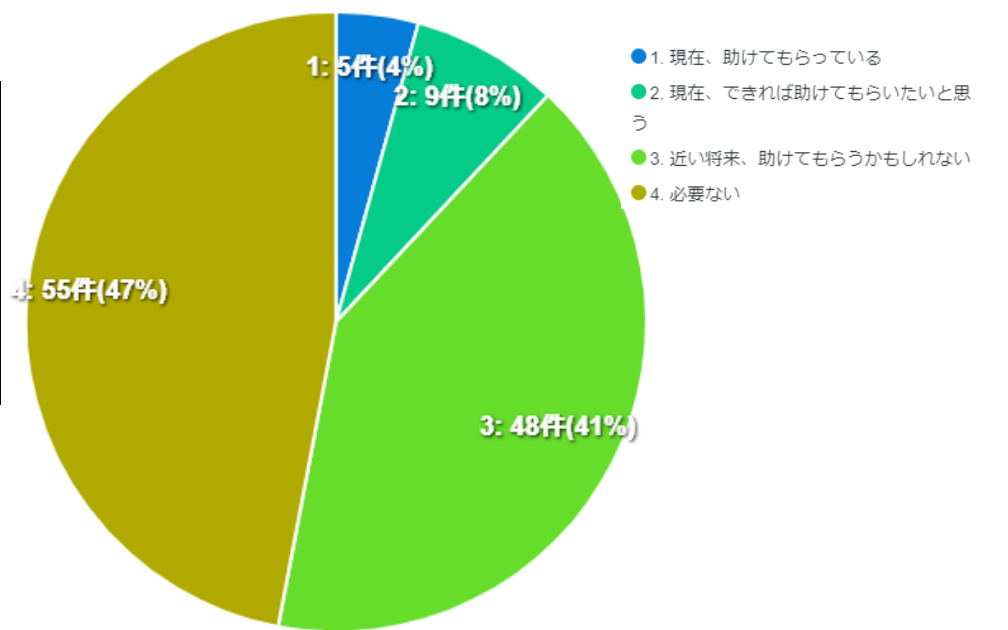
Q7. ちょっとした買い物・ゴミ出し

項目	人数	割合
現在、助けてもらっている	2	2%
現在、できれば助けてもらいたいと思う	3	3%
近い将来、助けてもらうかもしれない	57	49%
必要ない	55	47%



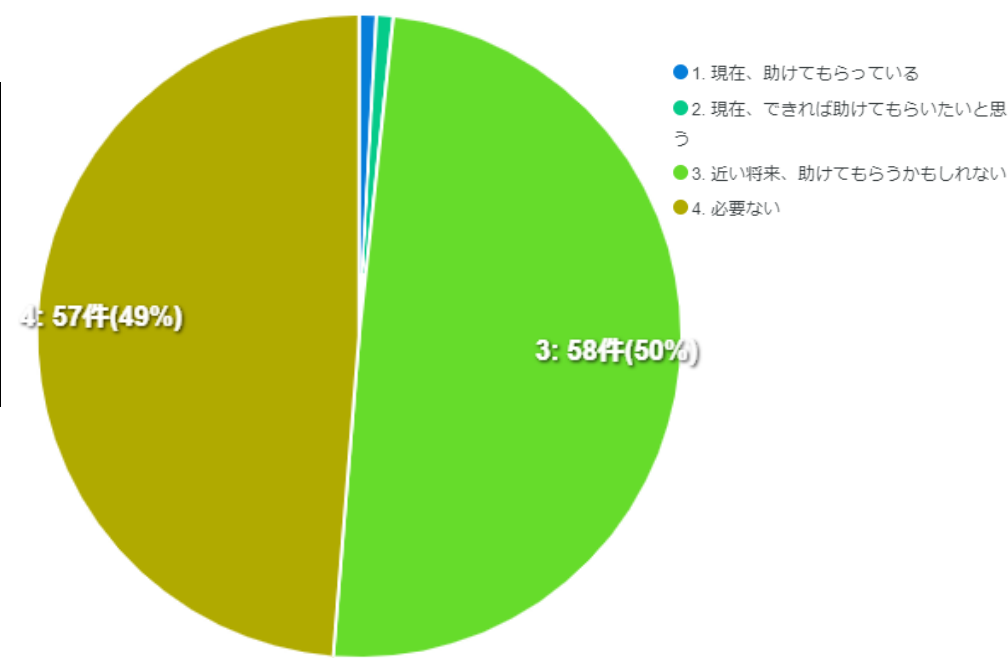
Q 8. ちょっとした草取り・草刈り

項目	人数	割合
現在、助けてもらっている	5	4 %
現在、できれば助けてもらいたいと思う	9	8 %
近い将来、助けてもらうかもしれない	48	41 %
必要ない	55	47 %



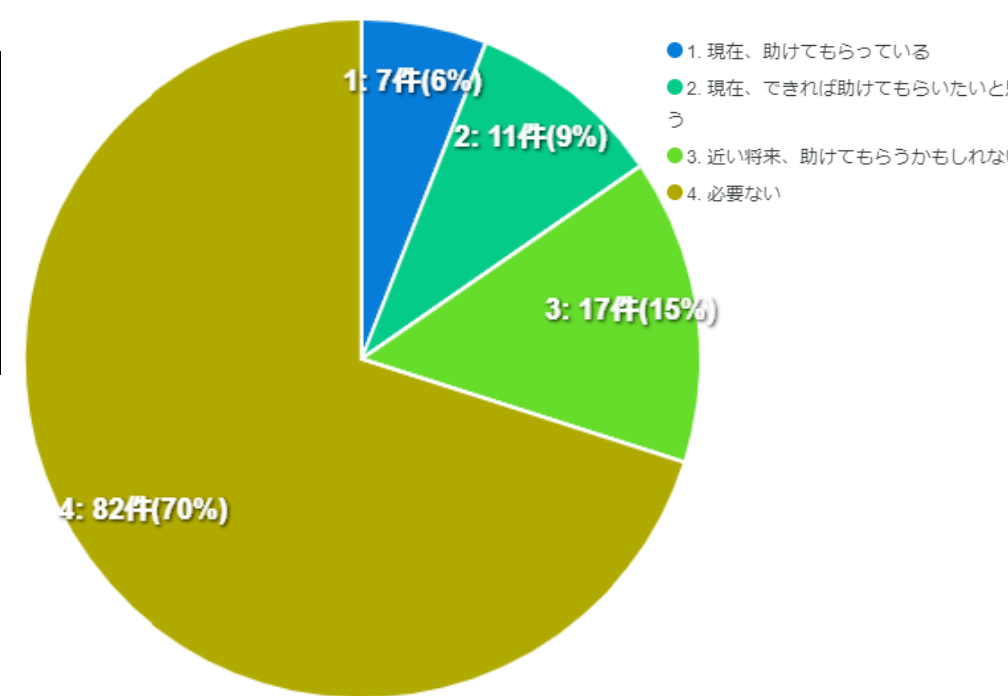
Q 9. 外出や通院の付き添い・送迎

項目	人数	割合
現在、助けてもらっている	1	1 %
現在、できれば助けてもらいたいと思う	1	1 %
近い将来、助けてもらうかもしれない	58	50 %
必要ない	57	49 %



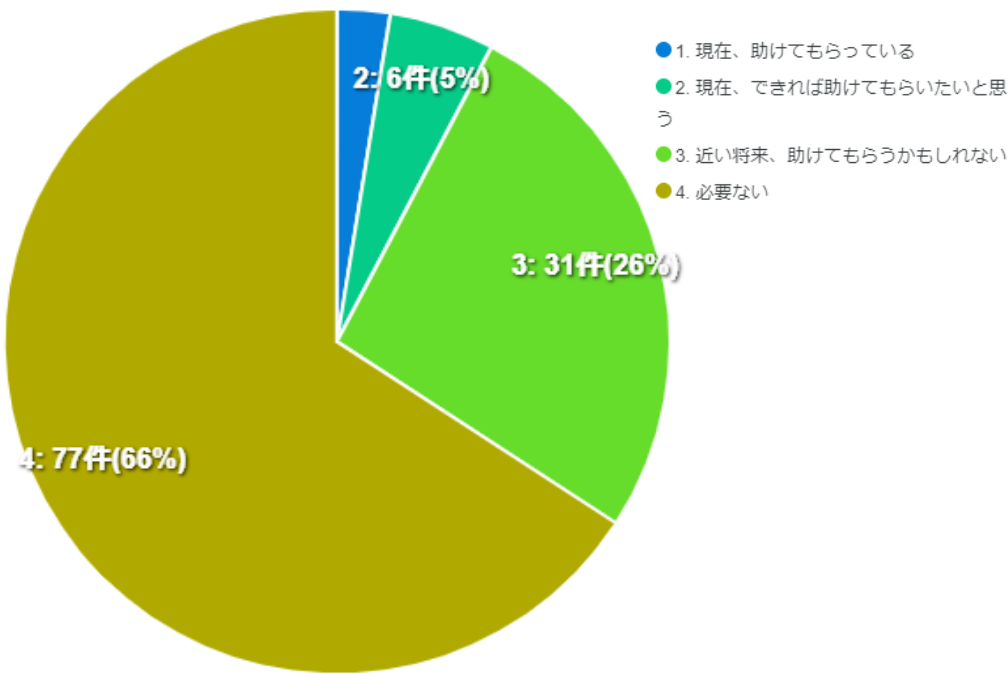
Q 10. 一時的なこどもの預かり

項目	人数	割合
現在、助けてもらっている	7	6 %
現在、できれば助けてもらいたいと思う	11	9 %
近い将来、助けてもらうかもしれない	17	15 %
必要ない	82	70 %



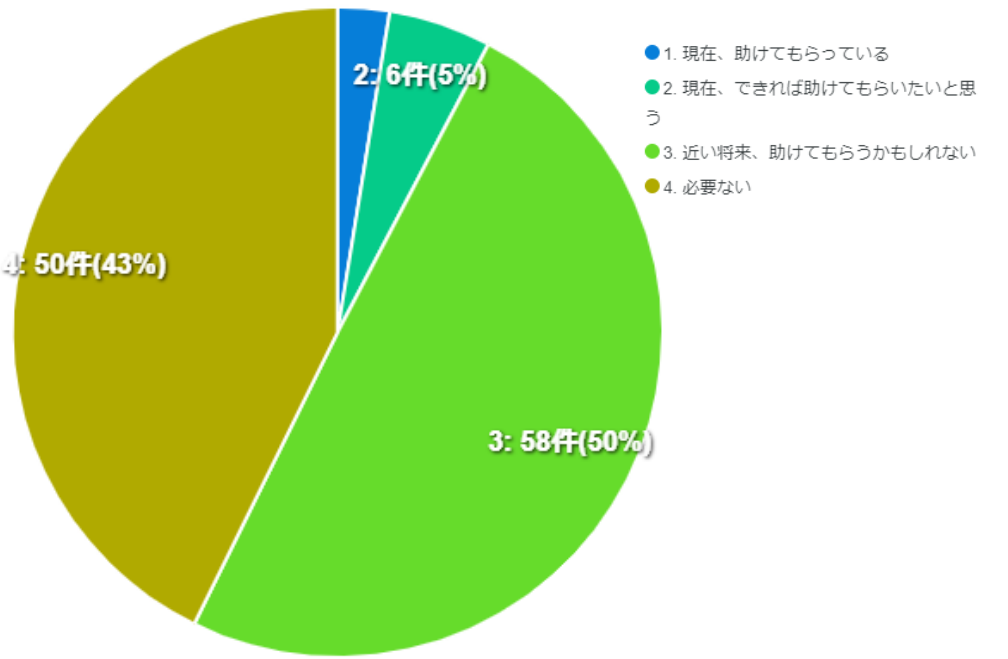
Q 1 1．一時的なペットの預かり

項目	人数	割合
現在、助けてもらっている	3	3 %
現在、できれば助けてもらいたいと思う	6	5 %
近い将来、助けてもらうかもしれない	31	26 %
必要ない	77	66 %



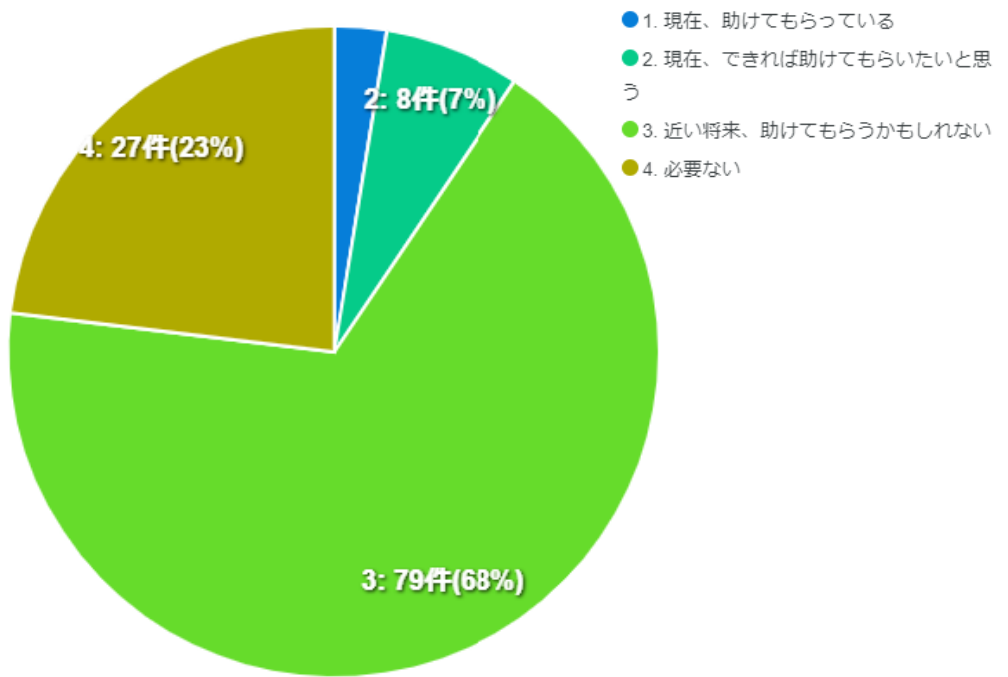
Q 1 2．話し相手や相談相手

項目	人数	割合
現在、助けてもらっている	3	3 %
現在、できれば助けてもらいたいと思う	6	5 %
近い将来、助けてもらうかもしれない	58	50 %
必要ない	50	43 %



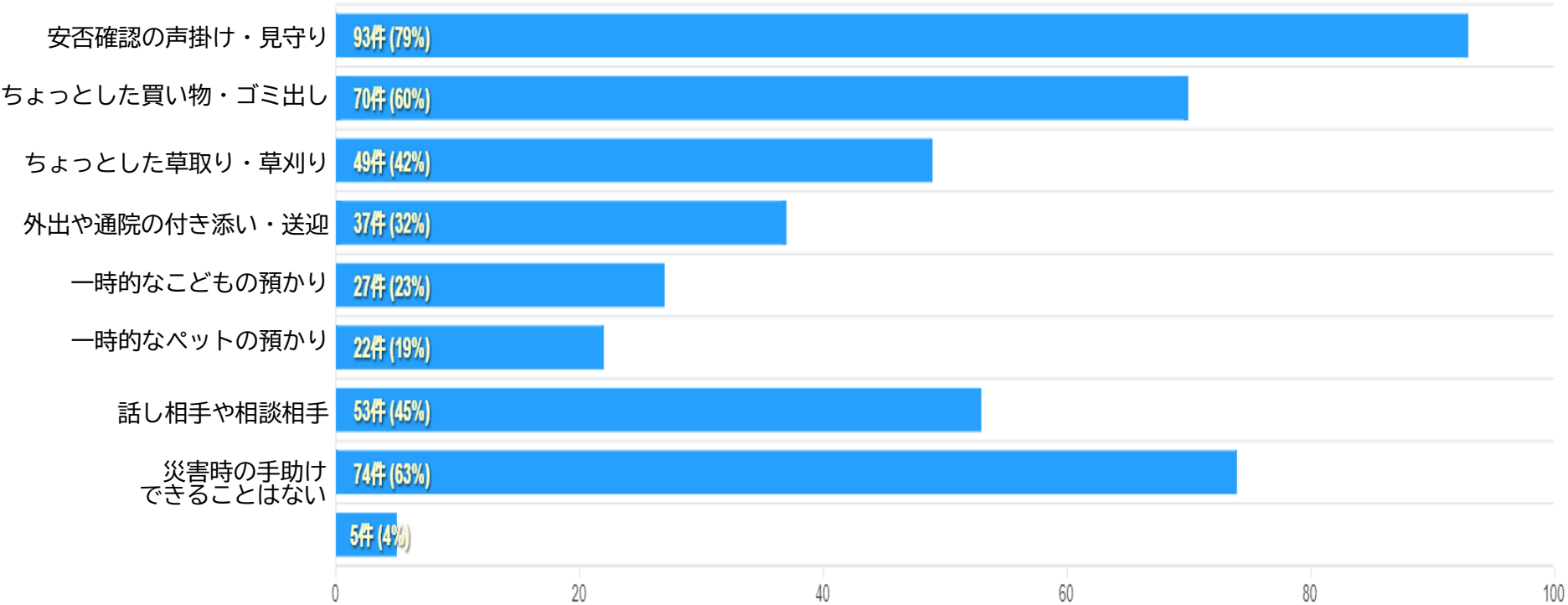
Q 1 3．災害時の手助け

項目	人数	割合
現在、助けてもらっている	3	3 %
現在、できれば助けてもらいたいと思う	8	7 %
近い将来、助けてもらうかもしれない	79	68 %
必要ない	27	23 %



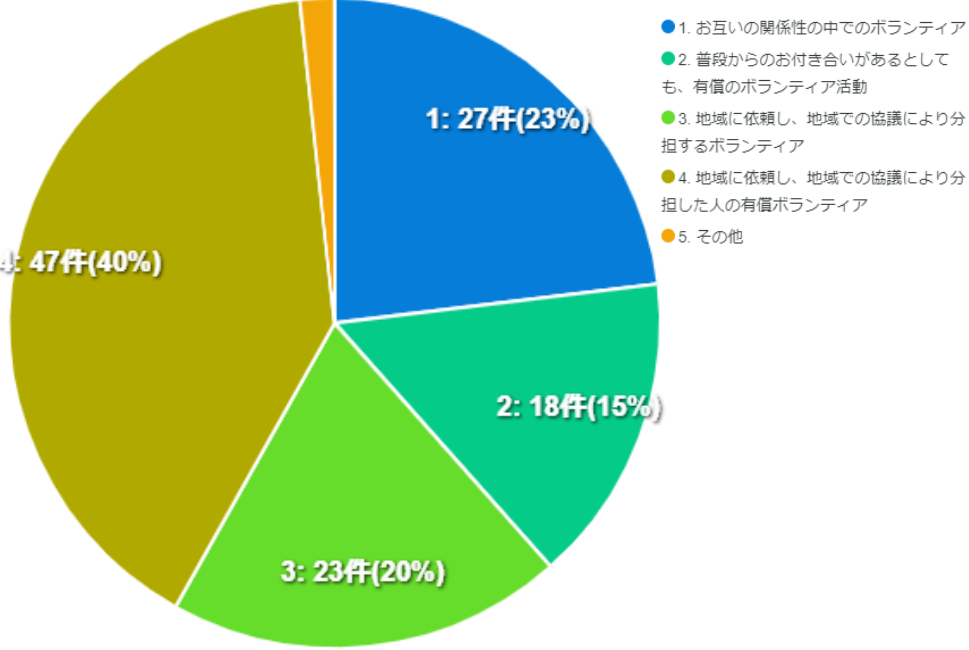
Q 1 4. 「地域の人困っていた場合、手助けができそうなもの」 全てを選択してください。

項目	人数	割合
安否確認の声掛け・見守り	9 3	7 9 %
ちょっとした買い物・ゴミ出し	7 0	6 0 %
ちょっとした草取り・草刈り	4 9	4 2 %
外出や通院の付き添い・送迎	3 7	3 2 %
一時的なこどもの預かり	2 7	2 3 %
一時的なペットの預かり	2 2	1 9 %
話し相手や相談相手	5 3	4 5 %
災害時の手助け	7 4	6 3 %
できることはない	5	4 %



Q 1 5. 地域の中で“助けたり”、“助けられたり” はどんな方法が成立しやすいと思いますか。両方の立場から見て、一番成立・維持できる方法を1つ選んでください。

項目	人数	割合
お互いの関係性の中でのボランティア	2 7	2 3 %
普段からのお付き合いがあるとしても、有償のボランティア活動	1 8	1 5 %
地域に依頼し、地域での協議により分担するボランティア	2 3	2 0 %
地域に依頼し、地域での協議により分担した人の有償ボランティア	4 7	4 0 %
その他	2	2 %



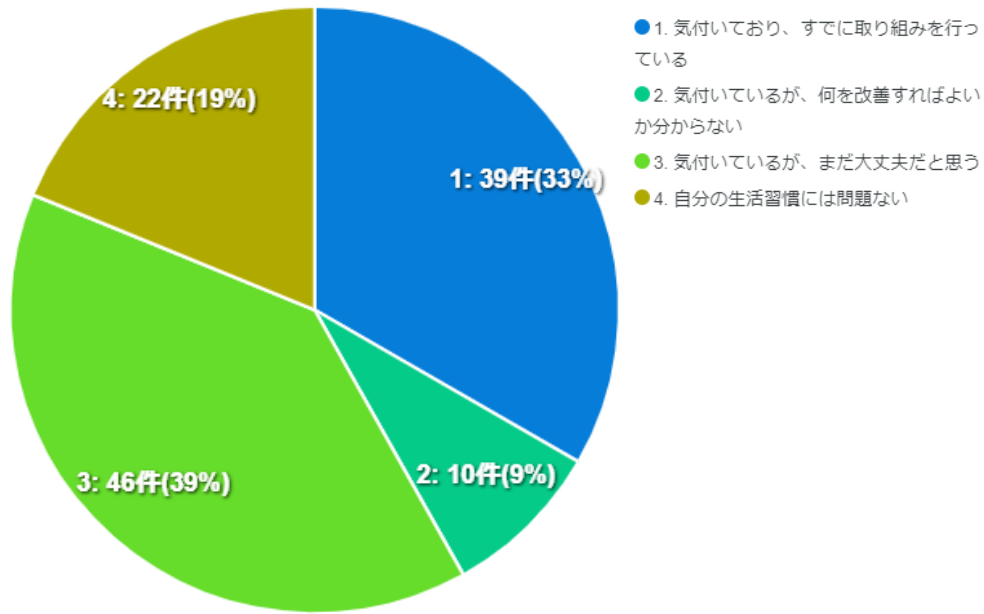
その他の回答

ゴミ出し、買い物、散髪、声かけ、食の遣り取り、生活や学業等の応援、防犯に関わる事等、日常的に行っている。 など
税金による(依頼者側が自ら支払うことのない)有償ボランティア。

小美玉市では、要介護状態にならないよう運動する機会や、認知症予防を行う「介護予防事業」、病気を予防するための望ましい生活習慣について助言を受ける「保健指導」、「趣味や生きがいづくり事業」を行っています。

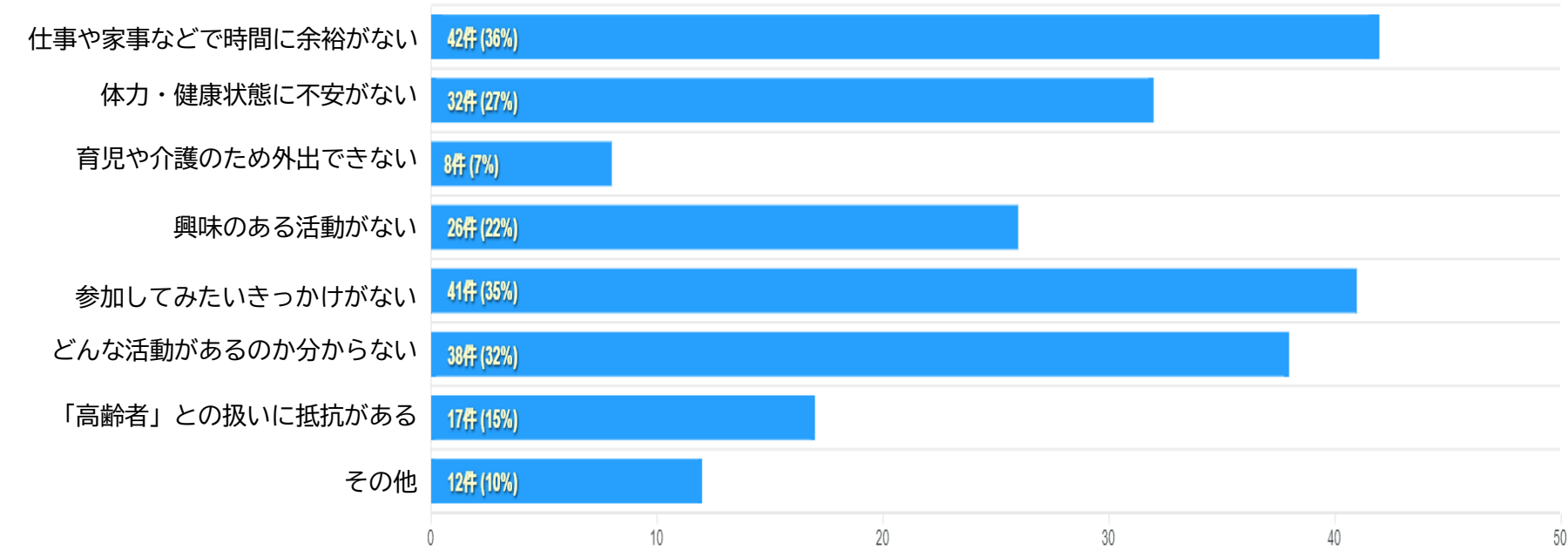
Q16. 自分の生活習慣の課題に気付いていますか。

項目	人数	割合
気付いており、すでに取り組みを行っている	39	33%
気付いているが、何を改善すればよいかわからない	10	9%
気付いているが、まだ大丈夫だと思う	46	39%
自分の生活習慣には問題ない	22	19%



Q17. 65歳を超えたとき(想像を含む)、これら事業への参加を難しくする理由は何ですか。次の中から当てはまるものを3つまで選んでください。

項目	人数	割合
仕事や家事などで時間に余裕がない	42	36%
体力・健康状態に不安がない	32	27%
育児や介護のため外出できない	8	7%
興味のある活動がない	26	22%
参加してみたいきっかけがない	41	35%
どんな活動があるのか分からない	38	32%
「高齢者」との扱いに抵抗がある	17	15%
その他	12	10%



その他の回答

現在自主講座 公民館講座 各文化センターの催し物に参加している
年金や老後の収入が少なく経済的な余裕がない
将来的な自分の体力・健康状態に不安があるから
自分に出来る事なのかの判断が付かない時。他人がどう思っているのか気になる時。
既に、日常的に行っているモノがある。Q15 参照
親、兄妹の世話の問題で時間に余裕がない
携帯などの連絡手段だったり、必要な情報が見えない
これらの事業へ参加するための情報を見つけられない事。
未知の事業に参加することに不安を感じる。始めの一步がなかなかハードルが高い。
生きてるかわからない
断りづらくなったり役員が回ってきて想像以上に心身の負担が大きくなってしまいかもれないと考えて躊躇してしまう
想像がつかない

Q18. 何かご意見等ございましたら、ご自由にお書きください。

「自助」「互助」「共助」を考える前に、若者に住んでもらえる・選んでもらえるまちづくりをしていきませんか？ 自分も小美玉市に住んでそろそろ30年になります。 30年近く考えましたが、静かなまちだから以外の魅力が全くありません。 国道6号小美玉道路の話も進んでいるのはいいことだと思います。 しかしながらこれまで、スポーツシュレの話もなくなり、企業や商業施設誘致の話もない。 何があるんですか、小美玉市には。 互助の部分ですが、文部科学省・教育委員会及び学校主導での生徒及び学生の強制的なボランティアのような施策はしないでもらいたい。 強制ではないと謳っていながら学校で行えば、生徒及び学生には選択権のない強要に値する。 生徒及び学生は労働力ではない。 パフォーマンスのためだけのボランティアであれば大人たちだけでやりましょう。協力します。
年金制度を根本的に大改革して、どんなに低額でも生活保護受給者よりは多額の支給額が支給されるように制度を変えないと老後は苦しくて何も希望が見えない。
高齢者＝認知症ということが現実にもあり、高齢者の扱いはいきなり幼稚園児のようなものになってしまう。これでは、自分としてはとても参加する気になれない。 しかし、体力が落ちていくと、」自分ではできないことも増えていく。そうしたなか、何を誰に頼ったらいいいのか、頼れるのか不安になる。
自分と違うゴミ置き場の方のゴミをその方のゴミ置き場にお手伝いで出した時、あなたのゴミ置き場はここじゃ無いでしょうと言われる場合がある。
私の住む地域も高齢化が顕著になってきました。下の世代の方は皆んな別の地域に住んでしまうからです。 何か災害が起こったら限られた若者（40・50・60代）で上の世代の方を助けないといけないです。本当にどうしたらいいか、。。 介護が必要な方も沢山いらっしゃいます。 本当に不安しかないです。 どうしたら良いのか。 ドローンや自動運転のバス（つくばなどで試乗していたもの）などを使って、買い物などは助けていければいいなと考えます。 人と人のつながりももちろん大切ですが、限界がきています。
65歳以上との高齢者 年代での区分活動も必要では無いでしょうか。60代70代80代以上、それぞれの年代での悩み不安があり共有したい気持ちを抱えていると思います。また、それを踏まえての交流があって欲しいですね
地域の人々の中には、日常的に話す高齢者も少なくないが、他者との接触を避けている/好まない人々も、やはり、一定程度いる。だがらと言って、此方から挨拶をする(朝夕の、犬の散歩時等)様にしているが、応えがある人も無い人も様々。でも、徐々に。子供達も同様。 クリーン作戦の折などは、集合時(コロナ期間は、分散集合だったが)などには、そこここに、話の輪ができるのは、クリーン作戦のメリットの一つ。
自助・共助については地域の関係性があると思いますが、人口が減少する中で維持できるのか不安があります。 公助についてはかなり不安があります。現在介護をしていますが、小美玉市では利用できる在宅サービスが限られています。例えば訪問入浴ですが、希望しても来てくれる事業者が2ヶ所しかなく、またどちらも市内ではなく石岡市のため結局来れないということがありました。それ自体は事業所が少ないと理解はできますが、その分、家庭で入浴させることができるように、風呂場を改造する補助などが必要だと思います。しかし、物価高が進む昨今、今の補助額ではそれもできません。であれば、ベッド上で身体を洗えるシャワー機材があるのですが、約20万円するため簡単には購入できず、ケアマネージャーに相談しても補助の仕組みがないと言われます。つまり、公助における介護の実態把握がなされておらず、現在の補助制度は実状にあっていないと強く思います。自宅介護の充実のためにも補助の扱い方をもっと考え、実行してもらいたいです。 正直、103万円の壁や非課税世帯への給付を行うならば、現在自宅介護をしている家庭へもっと目を向けてもらいたい。帳簿上は収入があるようでも、介護世帯の金銭的な余裕は非課税世帯よりも少ないと思います。不公平です。平等である必要はないと思いますが、不公平であってはなりません。もっと現場を見てください。現場の声に耳を傾けてください。税金は高いが、その分の恩恵は全くといっていいほどありません。中間層がもっとも負担を強いられています。減税の恩恵はなく、補助の恩恵もない。ただただ、税を納めるだけ。それはおかしいです。 文がまとまらず申し訳ありませんが、もっと介護に関することを充実させて頂けると嬉しいです、行政にはそれを充実させてもらいたいと望みます。
後期高齢社会、少子化が重なり合い難しい問題。個人情報問題で昭和の時代の様に世話したりされたりすることに壁あり
年をとったときコンシルジュがいるといいなと思います
現状をあまり理解出来ていないが、気楽に訪問できるボランティア募集のホームページが現時点無いのであれば、作成しアナウンスする。
助けたい人だけ助ける ような仕組みにならないようにしてほしいです
ボランティア募集お知らせを社会福祉協議会のLINEで定期的を送ってください
中国の公園みたいに開催日時に決まりが無く自然に人が集まると始まる麻雀や運動サークルがあれば参加したい
地域がとても保守的で、めんどくさい。仲良くしたい気の合う人や魅力的な人がいない。 だから、極力かわりたくないのが本音。老後は、他県の自分の故郷に帰り、こちらには絶対住まないつもり。
自分で運転することのできない高齢者等のために、SNSや回覧板等、あらゆる手段を活用した私有車両乗り合いシステムがあると良い。乗る方はもちろん無料。乗せる方は回数に応じてガソリン代プラスアルファの報酬を得ることができる。もちろん税金から。 それがダメなら、その人しか使えない(転売禁止の)タクシーチケットを配布したら良いと思う。